

氏名	そうだ たかお 宗田 高穂
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第479号
学位授与年月日	平成16年 3月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	脳梗塞発症後1年間の再発と死亡についての検討
学位論文審査委員	(主査) 岸本拓治 (副査) 能勢隆之 中島健二

学位論文の内容の要旨

脳血管障害は日本の死因順位の第3位に位置しており、悪性新生物・心疾患に次いで主要な死因となっている。また、死亡に至らずとも後遺症を残すことも多い。脳梗塞は脳血管障害の7割以上を占めており、脳梗塞発症後の再発や死亡の動向を知ることは重要である。今回脳梗塞発症後の生存や再発の状況について追跡調査を行い、脳梗塞の臨床病型ごとに生存率や再発率を解析し、それぞれの病型について死亡や再発の危険因子について検討した。

対象と方法

山陰地方の基幹病院において急性期治療を施された脳梗塞患者を登録し、その後の再発や死亡について追跡調査を行った。症例の登録は1999年5月から2001年6月まで行い、751例を登録した。その内42例は十分な臨床情報が得られなかったため除外し、1例は追跡期間中に頭蓋外-頭蓋内血管バイパス術を施行され手技に伴い脳梗塞を発症したため除外した。総計で708例について追跡調査を行った。臨床病型は塞栓症の原因となる心疾患を有する者を心原性脳塞栓症 (CEI) とし、それ以外のもので脳梗塞の責任動脈に閉塞または50%以上の狭窄が認められるものをアテローム血栓性脳梗塞 (ATI) とし、上記に当てはまらないもので皮質症状を欠きかつ責任病巣が穿通枝領域に1.5cm未満の大きさのものであるか画像検査にて検出できないものをラクナ梗塞 (LAC) とした。CEI、ATI、LACのいずれにも属さないものを原因不明の脳梗塞 (IUC) とした。再発や死亡に関する危険因子は(1)脳卒中の既往歴、(2)糖尿病、(3)高血圧、(4)高脂血症、(5)喫煙習慣、(6)大量飲酒、(7)白質病変について検討した。それぞれの因子が再発や死亡に寄与する危険度の解析はCox回帰分析を用い、年齢と性別で補正して行った。統計学的有意は $p<0.05$ とした。本研究は鳥取大学医学部倫理委員会の承認を受け、対象患者には本研究の目的と方法について十分に説明し、了承を得て行った。

結果

調査の対象とした708例のうち、538例について脳梗塞発症から1年後の再発や生存の状況を評価することができた。臨床病型の内訳は、CEIが123例、ATIが149例、LACが132例、IUCが134例だった。死亡率についてはCEIで最も高く、以下IUC、ATIと続き、LACで死亡した者はなかつ

た。追跡期間中の死亡率については、4 群間で有意な差を認めた。死亡の危険因子について病型内での検討では、いずれの病型でも年齢が高いほど死亡する確率が高かった。年齢以外では、ATI で皮質領域に病巣があること、IUC で糖尿病を有することが死亡率を高くする要因として有意なものだった。再発率について 4 群間の比較では CEI で最も高く、以下 ATI、IUC、LAC と続いた。4 群の再発率に有意な差は認めなかった。再発の危険因子について病型内での検討では LAC で脳卒中の既往歴を有すること、糖尿病を有することが有意に再発率を高くする要因として認められた。CEI、ATI、IUC で再発に寄与する危険因子として有意なものは認められなかった。

考 察

脳梗塞の臨床病型別に、発症後の再発や死亡状況に関して検討した報告は国内では極めて少ない。一方欧米では臨床病型別に脳梗塞発症後の再発や死亡について調査検討し、ATI の再発率が最も高いと報告されており、今回我々の調査での CEI の再発率が最も高かったとするものと異なっている。今回の結果と従来欧米での報告との相違は、人種の違いや生活習慣などによる可能性がある。LAC 発症後の再発率について従来報告では、再発の危険因子として高血圧、糖尿病、白質病変が挙げられているが、今回の調査では LAC で脳卒中の既往歴と糖尿病が再発の危険因子となることを示した。

結 語

今回の調査で脳卒中の既往歴と糖尿病が LAC 発症後の再発の予知因子となることが示唆された。脳梗塞発症後の再発率、死亡率ともに CEI で最も高くなっていた。日本人についてこのような研究は少なく、今後さらに多くの対象人数とより長期の調査期間により日本人について脳梗塞発症後の再発や死亡についての傾向を確証していく必要があると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脳梗塞の症例を対象として、1 年間の再発や死亡状況について調査検討したものである。本邦においてこのような研究は極めて少なかった。今回の研究によって日本人の脳梗塞は CEI で再発率、死亡率ともに最も高値となることが明らかとなった。また病型内での検討では LAC で脳卒中の既往歴と糖尿病がその後の再発率に影響を与える因子となる可能性があることが示された。本論文は日本人の脳梗塞の予後について新たな知見を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。